



遠野郷八幡宮は、多田宮司(後列左)一家によって守られている。市民の心のより所となるよう、今日も遠野の平安を願いながら、広大な境内の維持管理にあたっている。

# 遠野郷八幡宮

宮司 多田 頼申 <sup>よりのぶ</sup>さん

遠野の子どもたちに、境内の祭りのすばらしさを伝えたい。

350年の間、例祭日である9月15日に行ってきたやぶさめ神事と馬場巡り神事の歴史を変えても良いものか、神職として悩みました。一方で、祝日法の変更という時代の流れがあり、このままではその伝統の形が途絶えてしまうのではないかという危機感も強くありました。遠野の子どもたちに、八幡宮での祭りのすばらしさを伝えたい。そして、自分の生まれ育ったふるさとに誇りを持ってもらいたい…。市民や総代の皆さまの後押しもあり、日にちを変え、やぶさめと馬場巡りの伝統の形を、次代につないでいくことを決断したのです。

合同開催したことにより、かつてあった、子どもからお年寄りま

で参加し、境内でご飯を食べながらゆっくりと郷土芸能を楽しむという姿が戻り、うれしく思っています。たくさんの方々が奉納され、きっと神様も喜んで下さったのではないのでしょうか。

広大な境内に市民が集結し、多彩な郷土芸能が繰り広げられる祭りは他にはありません。遠野まつりは、日本一の祭りだと思います。これからも、郷土芸能団体にとって、年に一度の晴れの舞台となるよう協力していきたいと思っております。この祭りがきっかけで、郷土芸能の継承活動が活性化し、地域の絆がさらに深まってくれればうれしい。そして、遠野郷八幡宮の歴史と文化的価値が見直されることを願っています。



遠野まつり実行委員会  
企画運営委員長  
佐々木 國允 <sup>くにちか</sup>さん

## 遠野人のDNAが、合同開催を求めていた一。

市街地を中心とした遠野まつりの開催は一定の評価を得てきましたが、それでもなお「昔のように一緒に開催してもらいたい」「八幡様でも、おらほの郷土芸能を披露したいんだ」という市民の思いが根強くありました。その思いは、分離開催が続くうちに大きくなっていったのです。伝統や文化、歴史を大切に後世へ継承してきた遠野人のDNAが、合同開催を求めたのではないのでしょうか。

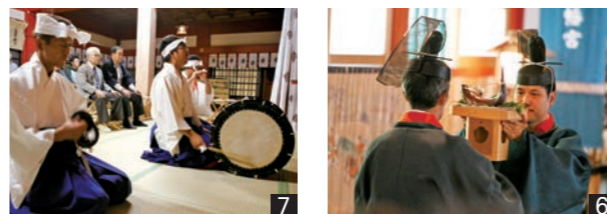
遠野郷八幡宮の協力を得て合同開催することができ、市民の郷土芸能に対する情熱や、伝統を大切にすることに火が付き、遠野まつりの魅力はさらに高まりました。また、市民が一体となって祭りを楽しみ盛り上げようとする姿は、遠野を訪れた多くの人に感動を与えました。これからもずっと、市民の想いが入った祭りとなるよう、遠野郷八幡宮と一緒に歩いていきたいと思っております。

つながらる伝統  
そして迎えた祭り2日目。6年ぶりの合同開催ということもあり、遠野郷八幡宮の境内には多くの市民や観光客が詰めかけた。やぶさめが勇壮に披露されると、境内には歓声が轟いた。郷土芸能団体は6年分の思いを込め、日ごろの継承活動の成果を馬場いっぱい披露。350年の伝統が次代に受け継がれ、遠野まつりに新たな一ページが刻まれる日となった。

「八幡様で披露したい」  
6年ぶりの合同開催が実現した原動力は、市民の強い思いだった。「八幡様で、郷土芸能をみんなで披露したい」という各団体からの強い要望があり、その思いを祭りに反映させようと、実行委員会は佐々木國允さんらを仲介役として遠野郷八幡宮と協議を開始。例祭日から日をずらすことに苦悩しながらも、社会人や学生も参加できる週末に開催することで、伝統の形をしっかりと次代につないでいきたいとする神社側との思いが一つになった。



1・2\_馬場巡りでは多彩な郷土芸能団体が馬場を練り歩き、華やかな舞を披露。訪れた人たちは、350年変わらない光景に魅了された 3\_郷土芸能団体は、6年分の思いを込め拝殿前で舞を奉納 4\_遠野の馬事文化の奥深さを象徴するやぶさめ 5・6・7\_9月14・15日には宵宮と例祭が厳かに行なわれた。関係者は遠野の平和を願った



遠野郷八幡宮と遠野まつりの歴史(略年表)	
1661年 (寛文元年)	現八戸市から入部した南部直栄公が鍋倉城を築き、八幡宮を現所在地に遷宮。やぶさめや郷土芸能を奨励し奉納させた。
1953年 (昭和28年)	明治時代以降一時衰退していたやぶさめ奉納を復活。
1972年 (昭和47年)	遠野まつりを初めて合同開催。
2003年 (平成15年)	祝日法改正。
2014年 (平成26年)	今後、9月の第3土・日曜日に合同開催することと合意。

伝統の舞台  
本市で郷土芸能が盛んな理由は、約350年前にさかのぼる。遠野まつりは遠野郷八幡宮の例祭と分離開催が続いていたが、遠野人のDNAと、郷土芸能への愛が合同開催を実現させた。

### まつりの歴史

八幡宮の例祭の起源は約350年前、南部直栄公が郷土芸能を奨励したことに始まったといわれる。以来、やぶさめ神事と馬場巡り神事は脈々と継承されてきた。昭和47年、例祭日(9月15日・敬老の日)にあわせ、市街地と境内で行なう現在のスタイルで遠野まつりを初開催。郷土芸能を披露する舞台として親しまれ、日本のふるさとの原風景が色濃く残る祭りを一目見ようと市外から多くの観光客が訪れるようになった。30年以上継続してきたが、平成15年の祝日法の改正により、市民らが参加しやすいよう週末に開催したい実行委員会と、例祭日を大切にしたい遠野郷八幡宮の両者の思いに隔たりがあり、分離開催が続くことになる。